

## 今年の夏は暑くないそう・・・高温年でも基本技術励行で高品質米づくり コシヒカリの穂肥は生育診断に基づき適切に！

### － 重点事項 －

- ◎ 幼穂形成期以降は、田面の固さを維持しながら飽水管理を行う（高温時は水の更新）。
- ◎ コシヒカリは必ず生育診断を行い、適期・適量の穂肥施用を行う。
- ◎ カメムシによる斑点米発生防止のため、畦畔・農道の草刈りを実施する。

## 1 6月28日現在の生育状況【普及センター調査ほ】

【コシヒカリ】※平均は6地点の水稲作付面積に応じた加重平均

調査地点	田植日	草丈 (cm, %)			茎数 (本/m <sup>2</sup> , %)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差
山北/大毎	5/12	41	82	114	399	84	126	8.7	-0.7	+0.1	38.3	+1.3	-2.8
朝日/川端	5/15	43	83	110	607	129	121	9.4	-0.6	0.0	40.9	+1.4	+1.0
村上/山辺里	5/16	41	82	117	293	59	67	9.3	-0.6	+0.3	42.6	+6.6	-0.4
神林/牛屋	5/10	42	88	111	507	110	119	9.5	-0.1	+0.3	35.6	-0.4	-0.6
荒川/名割	5/12	38	88	108	309	86	97	8.8	-0.6	-0.2	39.2	+0.2	+0.7
関川/下関	5/12	38	80	121	459	115	148	9.0	-0.6	+0.4	38.5	-0.5	+2.2
平均	5/12	41	84	113	462	105	115	9.2	-0.5	+0.1	39.0	+1.1	+0.4

○草丈短く、茎数平年並の稲姿です。葉色は、ほ場間差・地域差が大きくなっています。7月は気温が高くなる予想です。葉色の変化や稲姿の乱れに注意しましょう。

## 2 7月4日現在の出穂期予想 ～早生・中生とも平年並の見込み～

品種名	出穂期* (予想)	穂肥時期(出穂前日数)				合計施肥量 (チツソ kg/10a)
		1回目		2回目		
五百万石	7月26日	7/6	(20)	7/14	(12)	1～2
こしいぶき	7月30日	7/7	(23)	7/16	(14)	2～3
こがねもち	8月3日	7/16～7/19	(18～15)	7/24	(10)	1～3
コシヒカリ	8月9日	7/22～7/25	(18～15)	7/30	(10)	1～3

\*コシヒカリは5月10日、その他の品種は5月5日田植えでの予想日  
※出穂期は気象条件で大きく変動するので、今後の情報に注意してください。  
(穂肥は、必ず幼穂長を確認して施用しましょう)

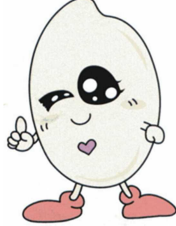
## 3 中干し終了後の水管理 ～根への酸素補給を忘れずに！～

- コシヒカリも出穂1か月前を迎える時期になります。  
中干しを終了して浅水の間断かん水を実施し、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持に努めましょう。
- 幼穂形成期以降は、ほ場を乾かさないうち注意しながら、飽水管理（水がなくなったらかん水を繰り返す方法）を行いましょう。  
※高温が続く場合は、水の更新で地温低下と酸素補給を図りましょう。



## 4 穂肥は「生育診断」に基づいて的確に！

生育診断によるコシヒカリ穂肥施用のめやす

回	時期・幼穂長・外観	診断ポイント	簡易葉色板	穂肥施用例
1 回目	<b>【出穂 18 日前】</b> ・ <u>幼穂長：0.5～1 cm</u> ・ <u>止葉が抽出開始</u>	●草丈：75 cm以下 ●茎数：420 本/㎡以下 50 株植え：28 本/株以下 60 株植え：23 本/株以下 ●葉色 (SPAD)：32 以下 葉色板単葉は 4 ●上位葉が立っており、ほ場全体の葉色が均一にさめている	「淡」に近い (栄養不足) ⇒増量施用① 「適」に近い (栄養適切) ⇒適量施用② 「濃」に近い (栄養過剰) ⇒遅め控えめ③	<b>【窒素分量】</b> ①増量施用 1.2～1.5kg/10a ②適量(通常) 1.0～1.2kg/10a ③控えめ(減量) 0.8kg/10a 以下
2 回目	<b>【出穂 10 日前】</b> ・ <u>幼穂長：8 cm以上</u> ・ <u>止葉と次葉の葉耳間長±0 cm</u>	●草丈：90 cm以下 ●下位節間長： (第 5+第 4) 15 cm以下 ●葉色 (SPAD)：32 以下 葉色板単葉は 4	「淡」に近い ⇒増量施用① 「適」に近い ⇒適量施用② 「濃」に近い ⇒減量施用③	

### 〈基肥一発肥料を使用した場合の葉色低下への対応について〉

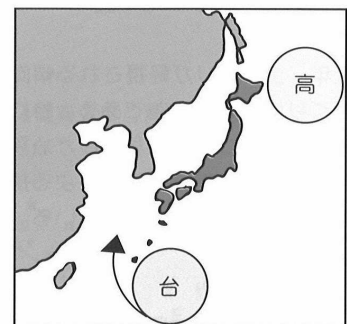
- 2回目の穂肥時期（出穂 10 日前）までに、簡易葉色板で「淡」に近くなる（周辺のは場より明らかに葉色が薄い）場合、速やかにチッソ成分で1kg/10a 程度の追肥を行いましょう（3 割減栽培の化学由来チッソ成分量に注意しましょう）。
- ※近年は、地力の低下や高温登熟などから、基肥一発肥料でも肥切れにより整粒歩合が低下する場合があります。葉色推移には十分気を配りましょう

## 5 フェーン時には速やかに湛水しましょう

### ～輪番給水の対応～

- 台風によるフェーンが想定される場合は、速やかに湛水しましょう。また、輪番取水をしている地区では、取水計画を確認して事前に湛水しておくことが重要です。

【気象図とフェーン予想】



- 台風が日本海の南海上から接近し、三陸沖から北海道北東に高気圧がある場合。

## 6 カメムシのすみかを絶やしましょう

### ～斑点米被害防止対策～

- 近年山間部や早生品種、個人防除地域などを中心に、カメムシ類の加害による斑点米での格落ちが多くなっています。昨年も被害が多くみられました。
- 下記の重点推進期間を中心に畦畔・農道の草刈りを徹底し、カメムシのすみか（穂や実を付けた雑草）を無くしましょう。
- 病害虫防除所の 6 月下旬の畦畔すくい取り調査によると、下越地域では斑点米カメムシ類が平年に比べ多くの地点で確認されました。
- アカスジカスミカメは本田内の雑草でも増殖します。ヒエ、ホタルイ等はできるだけ抜き取りましょう。
- 個人防除の場合は、出穂後の薬剤散布を確実に実施しましょう。



アカスジカスミカメ

草刈り重点推進期間は6月30日（土）から7月16日（月・祝）まで